

令和7年度三重大学国際交流事業実施報告書（学内版）

1. 申請部局

学部・研究科名等： 医学部 整形外科

事業担当者の職・氏名： 整形外科講師 中村知樹

内線電話番号： 5636

電子メール： tomoki66@med.mie-u.ac.jp

2. 事業の名称（20字以内，別に副題を付けても良い）

フィリピンと本邦における骨軟部腫瘍研究の促進

3. 事業内容の別（該当するところにチェックを入れてください。）

教職員，学生の海外派遣（学会やシンポジウム等の出席は除く）

海外交流機関等からの教職員，学生の受け入れ

国際教育プログラムの開発や推進

その他

4. 事業の取組結果

(1) 事業概要 (簡潔に事業全体の概要がわかるように記述してください)

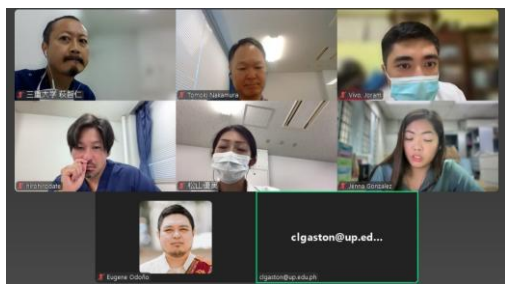
骨・軟部肉腫の治療促進のため、当院 (日本) とフィリピン総合病院 (フィリピン大学) における医療背景などを踏まえた共同研究および予後改善の取り組みを促進する。

(2) 事業の背景・これまでの実績

骨・軟部肉腫は希少がんであり、日本でも治療開発があまり進んでいない分野である。一方発展途上国に目を向けたときに、受診から診断に至るまで、医療技術を考える前に医療システムの問題 (費用および専門施設の少なさ) に直面することが容易に予想される。そこで本邦とフィリピンの骨・軟部肉腫診療の課題をお互いが確認し、共同研究および予後改善の取り組みを促進することを提案した。フィリピン総合病院には申請者と留学時代に臨床研究を行っており (Nakamura T, Gaston CL et al. Eur J Cancer 2013, Gaston CL, Nakamura T et al. Bone Joint J 2014 など)、十分な信頼関係が築けており、2019 年には申請者がフィリピン総合病院に 1 度訪問している。

(3) 事業実施結果

2025 年 4 月-7 月 月 1 回の Zoom 会議 (三重大&フィリピン総合病院)



2025 年 10 月 Dr. Czar Louie Gaton & Ms. Jenna Gonzalez 来訪



三重大大学整形外科教室



フィリピンの骨・軟部腫瘍の課題についての講義

2025年11月 Dr. Joram Vivo 来訪



手術見学および骨・軟部腫瘍外来見学

2025年11月 中村知樹 伊達雄大 フィリピン総合病院訪問



整形外科スタッフ&レジデントと交流



日本における骨・軟部腫瘍の Lecture

2025年12月 共同研究倫理審査提出

- ・骨肉腫患者における治療介入までの期間が予後に及ぼす影響

日本フィリピン共同研究

- ・軟部肉腫患者における無計画手術後の追加切除後の治療成績可及的追加切除は必要か？日本フィリピン共同研究

準備中

- ・AI（人工知能）と骨・軟部腫瘍病理組織

日本フィリピン共同研究

（４）事業の意義

本事業は日本とフィリピンの医療情勢を踏まえた実現可能な共同研究を行う第1歩となった。交互に施設交流することで、お互いの施設の充実度および医療情勢を研究者が知ることができた。また On-site で意見交換することにより研究立案をスムーズにすることができた。

（５）事業の発展性

交流を経て、実現可能な3つの共同研究を現在開始している。フィリピン総合病院

では多くの骨・軟部腫瘍患者の治療を行っているが、研究立案についての know how があまりなく、研究に対する意欲があるものの、実施に至れない実情があることがわかった。そこで我々が加わることにより、フィリピン総合病院側からも研究意欲が高まり、我々も症例を加えて、希少がんである骨・軟部腫瘍の症例数を増やして研究を行えるメリットがあり、今後も継続して研究を行いたい。

(6) 中期目標・中期計画における位置づけ

- ・ 現在審査中の臨床研究 3 件について 3 年以内の研究成果報告（論文化）を目指す
- ・ 研究を進めると同時に新規研究計画を立案していく（2027 年、2028 年）
- ・ 1 年に 1 回可能であれば直接訪問による交流で持続的・友好的な関係を維持する

(7) その他

令和7年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：日本語版）

事業名：フィリピンと本邦における骨軟部腫瘍研究の促進

申請者：医学部整形外科 講師 中村知樹

事業概要

骨・軟部肉腫の治療促進のため、当院（日本）とフィリピン総合病院（フィリピン大学）における医療背景などを踏まえた共同研究および予後改善の取り組みを促進する。

事業の背景

これまでの実績：骨・軟部肉腫は希少がんであり、日本でも治療開発があまり進んでいない分野である。一方発展途上国に目を向けたときに、受診から診断に至るまで、医療技術を考える前に医療システムの問題（費用および専門施設の少なさ）に直面することが容易に予想される。そこで本邦とフィリピンの骨・軟部肉腫診療の課題をお互いが確認し、共同研究および予後改善の取り組みを促進することを提案した。フィリピン総合病院には申請者と留学時代に臨床研究を行っており（Nakamura T, Gaston CL et al. Eur J Cancer 2013, Gaston CL, Nakamura T et al. Bone Joint J 2014 など）、十分な信頼関係が築けており、2019年には申請者がフィリピン総合病院に1度訪問している。

事業実施結果

2025年4月-7月 月1回のZoom会議（三重大&フィリピン総合病院）

2025年10月 Dr. Czar Louie Gaton & Ms. Jenna Gonzalez 来訪

2025年11月 Dr. Joram Vivo 来訪

2025年11月 中村知樹 伊達雄大 フィリピン総合病院訪問

2025年12月 共同研究倫理審査提出（2件提出、1件作成中）

事業の意義

本事業は日本とフィリピンの医療情勢を踏まえた実現可能な共同研究を行う第1歩となった。交互に施設交流することで、お互いの施設の充実度および医療情勢を研究者が知ることができた。また On-site で意見交換することにより研究立案をスムーズにすることができた。

事業の発展性

交流を経て、実現可能な3つの共同研究を現在開始している。フィリピン総合病院では多くの骨・軟部腫瘍患者の治療を行っているが、研究立案についての know how があまりなく、研究に対する意欲があるものの、実施に至れない実情があることがわかった。そこで我々が加わることにより、フィリピン総合病院側からも研究意欲が高まり、我々も症例を加えて、希少がんである骨・軟部腫瘍の症例数を増やして研究を行えるメリットがあり、今後も継続して研究を行いたい。

令和 7 年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：英語版）

Project: Promotion of Research on Bone and Soft Tissue Tumors in the Philippines and Japan

Applicant: Department of Orthopaedic Surgery, Mie University Faculty of Medicine.

Lecturer Dr. Tomoki Nakamura

Project concept: To promote the treatment of bone and soft tissue sarcomas, we aim to facilitate collaborative research and efforts to improve prognosis based on the medical backgrounds of Mie University hospital (Japan) and the Philippine General Hospital (University of the Philippines).

Background: Bone and soft tissue sarcomas are rare cancers, and in Japan, the development of treatments for them has not progressed significantly. On the other hand, when looking at developing countries, it is easily anticipated that before even considering medical technology, there are issues with the healthcare system itself—such as costs and the limited number of specialized facilities—affecting the path from consultation to diagnosis. Therefore, we proposed that Japan and the Philippines confirm the challenges in bone and soft tissue sarcoma care with each other and promote collaborative research and initiatives to improve prognosis.

Results:

April to July 2025: Zoom meeting

Oct 2025: Dr. Czar Louie Gatton & Ms. Jenna Gonzalez visited Mie University

Nov 2025: Dr. Joram Vivo visited Mie University

Nov 2025: Dr. Tomoki Nakamura & Dr. Hironori Date visited Philippine General Hospital

Dec 2025: Two studies were submitted on IRB at Mie University Hospital

Significance of this project: This project served as a first step toward conducting feasible joint research based on the medical situations in Japan and the Philippines. By exchanging visits between facilities, researchers were able to understand the level of resources and medical conditions at each other's institutions. Additionally, exchanging opinions on-site helped facilitate smoother research planning.